

第5学年3組 社会科学習指導案

指導者 大森小学校 五十嵐健一

1 小単元名 社会を支える情報

2 小単元について

本小単元では、学習指導要領の内容（4）の内容イ「情報ネットワークを有効に活用して公共サービスの向上に努めている事例を取り上げ、多種多様な情報を必要に応じて瞬時に受信したり、発信したりすることができる情報ネットワークの働きが、公共サービスの向上のために利用され、国民生活に様々な影響を及ぼしていることを具体的に調べること」にもとづいて設定したものである。情報化の進展によって人々の生活の向上が図られていることを具体的に調べることにより、情報化の進展は、国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えることができるようにすることがねらいである。

この数年で、世の中は急速に情報化が進んでいる。私たちの生活に関わる場所でも、コンビニエンスストアでのサービス、図書館の蔵書検索、宅配便の荷物が今どこにあるかといった情報など多くの情報が電子化され、ネットワーク上で共有されている。本小単元では、児童が一度は利用したことがある病院を取り上げる。医療の現場で利用されている情報ネットワークは、病院内で同じ情報を共有できたり、待ち時間を減らして患者の負担を減らしたり、医者や看護師の仕事の負担を軽減したりするなどの利点がある。また、病院内だけでなく、他の病院と連携できたり、遠く離れた場所からも治療ができたりするなど、よりよい医療の実現が図られている。そこで、情報化社会に生きる人間として、情報化の進展が国民生活に大きな影響を及ぼし、それゆえに情報の有効な活用が大切であることを児童にとらえさせたい。

本学級の児童は、これまでに放送や新聞などの情報産業とわたしたちの生活の関わりについて、それらの産業がわたしたちの生活に大きな影響を及ぼしていることやその情報を適切に判断し有効に活用していくことの大切さを学んでいる。しかし、情報ネットワークについては、わたしたちの生活の中でどのように活用され、どのような利点をもたらしているのかあまり知らないのが現状である。実態調査の結果から、テレビや新聞は目に見えるが、情報ネットワークの実態は目に見えず、イメージしにくいものだからだと推察される。また、情報ネットワークに関する情報や体験が少ないことも理由として挙げられるのではないだろうか。

そこで、実際の指導に当たっては、インターネットや校内のネットワーク（校内ラン）を有効に活用したり、体験活動を取り入れたりしていきたい。千葉県医師会のホームページには、かかりつけ病院・診療所の検索し捨てスやオープンシステムの紹介、診療所と総合病院の連携等の情報が細かく紹介されている。そのサイトを利用し、自分が住む地域の病院を探す体験をさせたり、校内ランを活用して実際の病院を再現し、受付、薬局などに分かれて、患者の情報がどのように伝わっていくか体験をさせたい。そして、わたしたちの周りには様々な電子化された情報があることに気づかせるとともに、情報化の進展によってわたしたちの生活がとても便利になってきたことをとらえさせたい。

これらの学習を通して、マイナス面も考慮しつつ、電子化された情報を積極的に有効活用していく児童を育てたいと考える。

3 児童の実態

(アンケートの結果より)

① 社会科の学習は好きですか。

大好き (11名) 好き (17名) 嫌い (7名) 大嫌い (1名)

② 社会科の学習はなぜ好き(嫌い)ですか。

【大好き・好き】

- ・調べ学習が好き
- ・世の中や世界のことを知ることができる
- ・国や国旗の学習が楽しい
- ・歴史や昔のことが好き
- ・焼津市や沖縄の勉強が楽しかった
- ・いろいろな発見がある
- ・みんなで考えるのが楽しい
- ・見学ができる
- ・大人になっても使える

【嫌い・大嫌い】

- ・難しい言葉や内容がある
- ・調べ学習が嫌い
- ・暗記するものが多い
- ・国土の勉強が苦手

③ コンピュータ(インターネット)を使いますか。

よく使う (11名) たまに使う (11名)
あまり使わない (5名) ほとんど使わない (8名)

④ コンピュータ(インターネット)を使って何をしますか。

- ・調べものをする(学習・趣味)
- ・有名人のブログを見る
- ・塾関係
- ・曲をダウンロードする
- ・ゲームをする

⑤ 携帯電話を持っていますか。

はい (21名) いいえ (14名)

⑥ 携帯電話を使って何をしますか。

- ・電話 (20名)
- ・写真撮影 (1名)
- ・メール (17名)
- ・目覚まし (1名)
- ・ゲーム (3名)
- ・電卓 (2名)
- ・動画を見る (2名)
- ・音楽を聴く (1名)
- ・ニュースを見る (1名)
- ・アプリ (1名)
- ・調べもの (1名)
- ・占い (1名)

⑦ 「情報ネットワーク」と聞いて何が思い浮かびますか。

- ・情報がたくさん入っていること
- ・情報がつながっている様子
- ・ネットの情報
- ・情報をネットで見せること

⑧ 「電子カルテ」という言葉を聞いたことがありますか。

はい 1人 いいえ 34人

【考察】

本学級では、社会科を好きと答える児童の割合は多かった。社会科に対する興味関心は高いといえる。情報化に関する設問では、インターネットは使う頻度は人それぞれであったが、調べ学習をはじめ、自宅でもインターネットを使う児童も多く、情報に触れる機会は多いといえる。携帯電話についても過半数の児童が所有しており、児童にとって身近にとらえられていることが分かった。その一方で「情報ネットワーク」や「医療カルテ」という言葉については馴染みが薄いようであった。その馴染みの薄さを、体験や実際の現場の医師の話をDVDで聞いて、身近なものとして捉えさせ、身近なものとしてその利点や問題点を考えさせていきたい。

4 小単元の目標

- 情報化した社会の様子に関心をもって意欲的に調べ、情報ネットワークの発達など情報化の進展は国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解する。
- 情報化した社会の様子から学習問題を見だし、各種の資料やインターネットを活用したり聞き取り調査をしたりして必要な情報を集め、読み取ったことを文章や作品にまとめるとともに、情報化の進展と国民生活とのかかわりについて思考・判断したことを適切に表現している。

5 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	○情報化した社会の様子に関心をもち、医療現場における情報ネットワークの活用を具体例として、生活の中に普及している情報ネットワークの働きや自分たちの生活とのかかわりについて意欲的に調べようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	○情報化した社会の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、表現するとともに、情報ネットワークを利用し必要な情報を共有することによって医療サービスの向上が図られ、わたしたちの命や健康を守ることに役立てられていることを考え、発表したり文章に表現したりしている。
観察・資料活用の技能	○情報化した社会の様子について、各種の資料やインターネットを活用したり聞き取り調査をしたりして必要な情報を集め、医療の現場では様々な形で情報ネットワークを有効に活用していることを読み取ってまとめている。
社会的事象についての 知識・理解	○情報ネットワークは医療などの公共のサービスの向上に有効に活用され、わたしたちの生活を守ったり便利にしたりしていることを理解している。

6 小単元の指導計画（8時間扱い）

		主な学習活動と内容	指導上の留意点
つ か む	1	○「情報ネットワーク」について知り、私たちの周りにはどのような情報ネットワークがあるのか考える。 ・学校の連絡メール（不審者情報や台風時など）	・これまでの学習や生活体験を想起させる。 ・考えづらい児童には、例を示し、似たようなものを考えさせる。

	1	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット（調べ学習で使用） ・消防車、救急車の出動（3年生で既習） ・図書館の蔵書検索 <p>○「救急車たらいまわし」の記事を読み、救急患者の受け入れ困難が問題となっていることについて話し合い、小単元の学習問題を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急車で運ばれてるのに受け入れないのはひどい。 ・人が足りない病院もあるのかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院、患者、双方の立場から考えられるように助言する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">医療の現場では、情報ネットワークがどのように役立っているのだろうか。</div>			
調 べ る	1	<p>○「救急車たらいまわし」にならないように取り組んでいる、病院と救急車、病院と病院の連携について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急患者を100%受け入れている「高知県立幡多けんみん病院」の例を取り上げ、医療現場の協力体制について考えさせる。
	1	<p>○医療現場での情報の電子化が進んでいることについて知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の周りで電子化されているものを想起させる。（生活体験） ・電子カルテの導入数の変化のグラフを見せ、なぜ増えているのか疑問を抱かせる。
	1 (本時)	<p>○校内 LAN で病院内の疑似体験をすること、医師の電子化に対する考え方（VTR）を聞くことで、電子カルテの導入がこれまでと比べて優れている点・問題点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な人がカルテを見ることができて便利だ。 ・情報が伝わるのが早い。 <p>△個人情報の取り扱いに注意が必要。 △導入にたくさんのお金がかかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・疑似体験をすることで、電子カルテの便利さを実感させる。 ・病院内の電子化についての医師の話（VTR）を聞くことで、考えを深めさせる。
	1	<p>○千葉市の病院情報ネットワークを調べ、情報化が私たちの生活にも密接に関わっていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私のうちの近くの病院が検索できた。 ・これはとても便利だ。 <p>○これからの患者と医療の関係について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に自分の住んでいるところの近くの病院を検索させることを体験させる。 ・在宅医療、遠隔医療について取

まとめる	2	○情報ネットワークについてまとめる。	り上げる。 ・救急のネットワーク、電子カルテ、病院情報ネットワークから選択させ、まとめさせる。
------	---	--------------------	--

7 市教研の研究主題との関連

社会の形成者として主体的に判断し行動する力を育てる社会科学習のあり方

本年度主題解明のための方策（市教研社会科部会研究計画案より）

- ① 児童の学習意欲を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ② 児童生徒に調べ方や学び方を習得させる指導と評価のあり方を明らかにする。
- ③ 基礎的・基本的な内容の定着を目指した学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ④ 児童生徒の多面的・多角的な思考力を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ⑤ よりよい社会を築こうと意志をもって行動する力を育成する学習指導と評価のあり方を明らかにする。

本小単元では、①と④を重点に置いた計画を立案した。

- ① 児童の学習意欲を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。

<導入の工夫>

子どもの実態を調査してみて、情報の学習の中でもインターネットや携帯電話は、児童にとって身近なようであったが、医療の電子化については、身近には感じていないようであった。事前のアンケートでも、「電子カルテ」という言葉を聞いたことがある児童が35名中1名、内容について知っている児童はいなかった。医療（病院）については、児童の誰もが一度は受診したことがあり、児童の生活にとっては身近であるが、なかなか「医療の情報化」については意識する機会はないようである。そこで、児童の学習意欲を高めるために、本小単元では、児童にとって身近な事象を導入に扱っていきたい。図書館や学校配信メールなど児童にとって身近なところから情報ネットワークの学習に入ることで、興味・関心をもって積極的に学習に取り組むのではないかと考える。さらに、社会問題となった「救急車のたらいまわし」を取り上げ、もし自分の家族がそうなったらどうするかを考えさせることで、児童は深刻な問題としてとらえ、「たらいまわし」にならないようにどのように取り組んでいるか、主体的に調べ解決することができるだろう。

<体験活動を取り入れる>

児童の学習意欲を高めるために体験活動を取り入れる。実際に病院を再現し、受付、診察室、検査室、薬局などに分かれて、患者の情報がどのように伝わっていくか体験させたい。模擬病院を想定し、看護師さんが、実際に遠くにあるレントゲン室からレントゲン写真を運ぶのには数分かかるが、電子カルテおよび病院の情報化が進められると、レントゲン写真を撮った瞬間に、診察室で医師が見ることができる。そのような仕組みを、校内LANを活用し、模擬体験することで児童は意欲的に取り組み、積極的に課題を解決することができるであろう。

④児童生徒の多面的・多角的な思考力を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。

＜思考を深めるための体験活動の工夫＞

本時の導入では紙のカルテと電子カルテを比較させ、その違いについて興味を持たせる。その後、電子カルテの普及率に関するグラフを見せ、電子カルテが徐々に普及していることを感じ取らせたい。その中で児童は「どうして電子カルテを使用する病院が増えてきているのか」という疑問を持つだろう。その疑問を解決するため、本時では病院を簡易的に再現し、模擬電子カルテを体験させる。実際に体験をすることで、電子カルテ、病院の電子化で便利になったことや問題点についての思考が深まると考える。さらに体験では分からなかった実際の医療現場の立場での電子化の利点、問題点について、実際に医師に語ってもらうことにより、さらに児童の思考が深まるだろう。

＜自らの思考を深めるための振り返りや表現の場の設定＞

本時では、模擬的に病院の仕組みを体験した後、電子化された病院のスタッフ役、紙で情報をやり取りする病院のスタッフ役、患者役それぞれの立場から体験した感想を交流させる場を設定したい。話し合いの場を設定することで、自分の体験した役割以外の立場からの感じたことを知ることができ、病院の中の情報の電子化の便利さについて深く考えられるであろう。また、医師の話のVTRを見たあと、自分なりの考えをまとめる場を設定したい。体験で分かったことと医師の話に関連付けて考えることで児童は電子カルテの利点・問題点についてより思考を深めることができるであろう。

8 本時の指導

(1) 目標

○電子カルテを模擬的に体験したり、医師の医療の電子化についての話を聞いたりすることにより、その利便性・問題点について考えることができる。 **【社会的な思考・判断・表現】**

(2) 展開

学習活動と内容	教師の指導と支援 ☆評価の観点	資料
<p>1. 前時の学習を振り返り、本時の学習問題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 電子カルテを使う病院が増えたのはなぜだろう。 </div> <p>2. 前時に立てた予想を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・便利だから。 ・すぐに見られるから。 ・書く手間を省くことができる。 <p>3. 模擬電子カルテの仕組みを体験する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者役、病院のスタッフ役（受付・医者・薬局）に分かれる。 ・電子化された病院と、紙で情報を扱う病院に分かれて、患者が受付をしてから薬を受け取るまでの流れをロールプレイする。 	<p>・前時の学習で学習した、電子カルテを使う病院が増えていたことを思い出させる。</p> <p>○小グループを組み、電子化で便利になったことを予想させる。</p> <p>○同じ情報を共有できることや早く情報が伝わることの便利さを感じさせる。</p> <p>○3台のPC（受付、診察室、薬局）の画面を大型テレビに映して、スピード感や手間が少なくなることを見ている人にも感じさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PC（3台） ・大型TV（3台） ・紙のカルテ ・処方箋
<p>病院の人の動き（電子カルテ）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 受付をする ② 医者役は診察結果を電子カルテ（提出用フォルダ内）に打ち上書き保存する。 「かぜ」「インフルエンザ」 ③ 受付役は診断結果を見て、お金を請求する。 ④ 薬局役は電子カルテを見て、薬を出す。 かぜ→かぜ薬 インフルエンザ→タミフル 	<p>患者役の動き</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 受付に行く ② 診察室に行く ③ 受付でお金を払う ④ 薬局で薬をもらう 	<p>病院の人の動き（紙のカルテ）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 受付をする ② 医者役は診察結果が書いたカルテ（紙）を看護師さんに渡す。 「かぜ」「インフルエンザ」 ③ 看護師役はカルテを診察室から受付まで持っていく。 ④ 受付役は診断結果を見て、お金を請求する。 ⑤ 患者役に処方箋（カード）を渡す。 ⑥ 薬局役は処方箋（カード）を見て、薬を出す。 かぜ→かぜ薬 インフルエンザ→タミフル
<p>スピードや 労力を 比べる！</p>		

<p>4. 体験をして感じたことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子化された病院では、患者さんの待ち時間が少なかった。 ・看護婦さんがカルテを運ぶ手間がなくなる。 ・ボタンを押すだけで情報がやり取りできて便利だ。 <p>5. 医師のインタビューのビデオを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬や二重検査などの人が起こすミスが減る。(文字の読み間違いなどが減る) ・患者さんを待たせる時間が少なくなる ・看護師さんの手間が少なくなる。 (レントゲン写真を長い距離を運ぶなど) ・導入するときにお金がかかる。 <p>6. 体験とビデオを見て分かった電子カルテの優れている点・問題点をノートにまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰でも同じ情報を共有できる。 ・違う病院でも共有できる。 ・患者さんの待ち時間が減る。 <p>△個人情報の取り扱いに注意が必要 △導入にたくさんのお金がかかる</p> <p>7. 本時のまとめをする</p>	<p>○患者役、電子化された病院のスタッフ、紙でやり取りする病院のスタッフ、それぞれの立場から感想を出させ、電子化の利便性をとらえさせる。</p> <p>○医師からの話を聞くことで、模擬体験ではわからない医療の電子化による利便性や問題点を実感としてとらえさせる。</p> <p>○疑似電子カルテを体験したこと、医師の話聞いて分かったことを振り返り、まとめるよう指導する。</p> <p>☆電化カルテの利便性・問題点について考え、表現することができたか。</p>	<p>医師の話 (DVD・4分)</p>
<p>電子カルテを使う病院が増えたのは、情報が早く伝わったり、看護師さんの仕事が少なくなったりと、色々な面で便利だからだ。</p>		
<p>8. 本時の学習の感想を書く</p> <p>9. 次時の予告をする。</p>	<p>○次時は身近な千葉市の医療のネットワークについて調べることを予告し、次時への見通しをもたせる。</p>	

<授業展開場所の図（体育館）>

